

**渋谷区小中一貫教育校
(猿楽小学校・鉢山中学校)
建て替え準備委員会**

第4回

2025年5月20日



開催日	議題
2025年 5月20日	1 開会 2 議題 (1) 建て替え準備委員会スケジュールについて ・第1回～第3回のおさらい (2) 第3回建て替え準備委員会の振り返り ・第3回建て替え準備員会で出た課題について (3) 今回の議題について ・建物配置について ・学校施設の機能ゾーニング (4) ハード面以外の検討について ・検討スケジュール（予定）他 (5) 次回の主な議題について ・アンケートの実施について ・基本計画（素案）の説明

建て替え準備委員会スケジュールについて

2-1

	日程/時期（仮）	議 題（仮）
第1回	10/22（火） 10：00～11：30	・ご挨拶、委員、事務局の紹介 ・建て替え準備委員会の設置及び会議の運営について ・渋谷区『新しい学校づくり』整備方針の概要について ・渋谷区小中一貫教育校（猿楽小学校・鉢山中学校）建て替えの概要 ・既存施設と法的規制について ・次回の主な議題について
—	①11/19（火） ②11/28（木） 16：00～17：00	・渋谷本町学園視察
第2回	12/13（金） 16:30～18:00	・渋谷本町学園視察について ・第1回建て替え準備委員会の振り返り ・必要諸室について
第3回	2/7（金） 16:30～18:00	・学校環境の整備方針 ・ラーニング・コモンズの使い方 ・地域開放の考え方
第4回	5/20（火） 17:00～18:30	・建物配置について ・学校施設の機能ゾーニング
第5回	6月	【基本計画（素案）の説明】
第6回	8月	【基本計画（案）の説明】

第1回

10/22 (火)
10:00~11:30

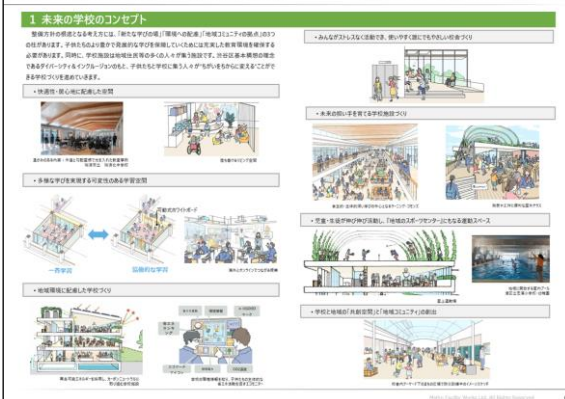
議 題

- ・ご挨拶、委員、事務局の紹介
- ・建て替え準備委員会の設置及び会議の運営について
- ・渋谷区『新しい学校づくり』整備方針の概要について
- ・渋谷区小中一貫教育校（猿楽小学校・鉢山中学校）建て替えの概要
- ・既存施設と法的規制について
- ・次回の主な議題について

新しい学校づくり 整備方針の概要

渋谷区『新しい学校づくり』整備方針の概要

2024.10.31 小中一貫教育校 建て替え準備委員会資料



小中一貫教育校 整備方針の概要

整備方針の説明

2024.10.31 小中一貫教育校 建て替え準備委員会資料

渋谷区『新しい学校づくり』整備方針に基づいた「新しい学びの空間」の実現を目指して、小中一貫教育校として相応しい学校環境の整備を行います。

- ### 1. 敷地の特性も活かした安心・安全で活動的な教育環境づくり

- 敷地面積や特性をもとに敷地内配置と外部空間とし、児童・生徒が活動しやすい環境を整備します。
建物内外ともモビリティを十分に確保し、子ども達と自然に接する施設となります。
- ② **地域とともに歩み、地域が育つ学校づくり**
今後長期計画に達して地域に根差す学校とし、積極的な地域協力が出来る施設構成とします。
円滑な内外的な関係構築と計画を行い、学校・地域が共に育っている学校づくりを目指します。
- ③ **小中一貫教育の多様な学びの体現できるラーニング・コミュニティ**
9年間の学びの場として、児童・生徒が活動出来る主体的・対話的な学びの場となります。
教室は、教科科目を超えて可能な限り可能なように、柔軟な対応能力に対応できるようにします。

ラーニング・コモンズのイメージ

子供達がタブレットや本で情報収集しながら主体的に学べる共有空間です。
一人で集中する学び、グループで協働する学びなど多様な学習スタイルに対応しています。



出費

渋谷区本町学園の紹介

渋谷区立渋谷木町学園のご紹介

2024.10.31 小中一貫教育校 建て替え準備委員会資料



一足製の導入検討

一足制について

2024.10.31 小中一貫教育校 建て替え準備委員会資料

新しい小中一貫教育校では、一足制の導入を検討しています。

上履を廃止することにより、通学時の下足を履き替えることなく、校舎や校庭、その他の
併設施設等の利用を可能とする施設運用制度

【主なメリット】

- (教育活動の機能性について)
- ① 下足廻りあるいは昇降口に限定されず内外出入りできるため、教室での活動を校庭やテラスなどの外部空間に拡張でき、より多様な学習活動が可能となる。
- ② 縦と横の壁を仕切りにかわり、円滑な交通導引や待ち合わせスペースが確保できる。
- ③ 水・給電設備など、生活に必要な利用可能な、より、身体が自然に活用しやすいとされている。
- ④ 内外のつながりがよく、日常的な活動を通じて「身体・体育的な」成長への（ペーパードキュメント）による様々な場所を機動的に対応できる。
- ⑤ 安全性・向上性
- ・ 視界に光潤、生徒が集まることによる楽な開放感、生徒間のトラブル等の予防を低減できる。
- ・ 災害時、避難経路を複数確保しやすく、より安全で安心な避難誘導が可能になる。
- ⑥ 経済性の向上
- ・ 押入れに大きな段差を設ける必要がなく、施設のリノベーション・改修がしやすい。
- ・ 校舎も比較的置き替えし易くならないため、構造的な効率が向上し使用し易い。
- ⑦ その他
- ・ 学校における教員活動スペースが乏しいが、施設全体の効率が上がる。

【主なデメリット】

- ・校内の美観保持のため、校庭や屋外運動場の表層は土上げ、泥や砂が校内に持ち込みにくく舗装仕様（例：人工芝やゴムチップ舗装等）とする場合は、整備コストが増える傾向となる。
- ・体育館を内蔵し利用する際は、体育館入口近傍に体育館用靴に置き替える場所の確保が必要になる。
- ・雨天日には昇降口などには床マット等を使用すると、校舎内の床の水漏れに対応する必要がある。
- ・雨天日には、児童・生徒が長靴や濡れた靴を一日中校内に想定した衛生上の課題がある。

法規制について

都市計画に関する主要な法規制【鉢山中学校敷地】

2024.10.22 小中一貫教育校 建て替え準備委員会資料

※ 敷地概要		※ 周辺敷地図	
所在地	計画敷地: 8,191㎡ (住所表示) 渋谷区宮前町9番1号 (地名表示) 渋谷区宮前町 ※計画通知書より		
用途地域	区域2 (敷地内) : 第2種中密度住居専用地域 区域2 (敷地外北部) : 第1種住居地域	地区計画等の 状況 地区計画 : 該当なし 都市計画区域 (整備区域等) : 該当なし 特用用途地区 : 該当なし 準建準整備地区 : 該当なし 風防地区 : 指定なし 住居協定・建築協定 : 指定なし 歴史的文化的財包蔵地 : 該当なし (敷地西側部分)	
容積率	300%		
許容延床面積	24,573㎡		
延床率	60% (準防火地域内の耐火建築物は+10%)		
許容建築物面積	4,914.6㎡ (準防火地域内の耐火建築物は5,733.7㎡)	地区計画等の 状況 地区計画 : 該当なし 都市計画区域 (整備区域等) : 該当なし 特用用途地区 : 該当なし 準建準整備地区 : 該当なし 風防地区 : 指定なし 住居協定・建築協定 : 指定なし 歴史的文化的財包蔵地 : 該当なし (敷地西側部分)	
防火規定	準防火地域 (22条区域 : 指定なし)		
最高地区	20m第3種高度地区 ※建築物との最高高差20m 高度地区制(北側) : 高さ25+△+0.10m		
日照規制	区域2 (敷地内) : 4-2.5時間、測定高さ4m 区域2 (敷地外北部) : 5-3時間、測定高さ4m		
制高度	道路北側 : 勾配1.25 適用制限25m 敷地北側 : 勾配1.25+△+0.20m 道路南側 : 勾配1.25+△+0.10m	地区計画等の 状況 地区計画 : 該当なし 都市計画区域 (整備区域等) : 該当なし 特用用途地区 : 該当なし 準建準整備地区 : 該当なし 風防地区 : 指定なし 住居協定・建築協定 : 指定なし 歴史的文化的財包蔵地 : 該当なし (敷地西側部分)	
道路	南側 : 特別区道 第435号国道 幅員8.22m(42号1車1号) ※北側の道路幅員は道路台帳の通り		

敷地周辺の分析

敷地周辺環境の分析 【鉢山中学校敷地】

2024.10.22 小中一貫教育校 建て替え準備委員会資料

道路と隣地との高低差が大きく(最大6m程度)、低層の戸建て住宅やマンションに囲われた閑静なエリア。校舎位置や擁壁高など、計画と地域への説明が重要な土地。接道は南側のみ。



2024

	日程/時期	議題
第2回	12/13 (金) 16:30~18:00	・渋谷本町学園視察について ・第1回建て替え準備委員会の振り返り ・必要諸室について

渋谷区本町学園視察について①

渋谷区立渋谷本町学園視察について

2024.12.10 小中一貫教育校 建て替え準備委員会資料



視察風景①

<基本情報>
平成24年4月開校 創立13年目
児童生徒数 897名 (小学校671名、中学校226名)
学級数 34学級 (小学校26、中学校8) 特支含む
教職員数 120名

<小中一貫教育の取り組み>
・5・6学年の50分授業
・5・6学年の一部教科担任制 (英語、理科、家庭科、音楽)
・中学校教員による5・6学年授業への一部交流 (美術、音楽、体育、外国語)
・部活動の小学校5年生から参加
・朝礼 (全校朝礼、ブロック朝礼、校種別)
・新1年生を迎える会
・1年生と9年生の交流
・運動会 (午前 初等部、午後 中・高等部)
初等部は6年生が運営スタッフとして参加

<課題>
・時程のしし
・時間割の調整
・放課後の校庭・体育施設利用



視察風景②

ハザードマップ



必要諸室について①

小中一貫教育校の必要諸室の考え方 (学校の規模設定) 2024.12.13 小中一貫教育校 建て替え準備委員会資料

部門	主な諸室	概ねの面積(m ²)
普通教室等	普通教室 (小学校2クラス×6年 = 12室、中学校2クラス×3年 = 6室)、少人数教室(9室)、特別支援教室など	約3,020
特別支援学級等	特別支援学級、フリースペース、特支室、特支準備室など	約430
ラーニング・コモンズ	図書スペース、オープンスペースなど	約1,080
特別教室等	理科室(小・中)、図工室(小)、美術室(中)、技術室(中)、音楽室(小・中)、家庭科教室(調理室(小・中)、各準備室、フューチャールームなど	約1,510
管理諸室等	校長室、応接室、職員室、事務室、職員会議室、生徒会室、地域開放室、PTA室兼助産室、放送室、保健室、サポータールーム、学校管理室、校庭管理室など	約1,670
給食関係諸室	調理室、事務室など	約500
体育施設等	体育館×2、武道場、用具倉庫、屋内プール、開放管理室、備置倉庫など	約3,520
放課後クラブ 共用部	放課後クラブ室、放課後クラブ事務室など 廊下・階段・機械室など	約280 約3,610
合計面積(m ²)		約15,620

<参考>各校の延床面積
猿楽小学校: 4,884m²、鉢山中学校: 5,859m²、渋谷本町学園: 15,794m²

新築建物は、現状の猿楽小学校と鉢山中学校の合計 (10,743m²) に対して約1.45倍の規模設定となります

※この資料は、建て替え準備委員会の検討資料であり、今後の検討や協議により変更になる可能性があります。

渋谷区本町学園視察について②

渋谷区立渋谷本町学園視察振り返り

2024.12.10 小中一貫教育校 建て替え準備委員会資料

質疑	回答
① どのくらいの頻度で地域開放しているのか。	基本は部活動のない水曜日に開放している。
② 渋谷本町学園のPTAより問題もあるというところについて。反省点などがあれば知りたい。	6年生については、小学校の最高学年であるという意識が薄れてしまっている課題はあると認識している。 そのため、子どもにも最高学年であるという自覚を持つことができる機会を設けている。 指導の工夫次第で、解決できない問題は無いと思っている。
③ 中学生になるタイミングで受験で外に出る子どもはどのくらいいるのか。また、卒業式の実態はあるのか。	3期が卒業で中学校から外へ。 6年生で卒業式、7年生 (中学1年) で入学式を実施している。
④ 制服は変わるのか。	変わる。ただ、無理に変えるのではなく、子どもの成長に合わせてタイミングをみて変えてもらっている。
⑤ 人工芝は設置しやすいのではないか。	最近の人工芝は改善されている。 地域の運動会などでも、人工芝は怪我が少なく安心すると声をもらっている。
⑥ 教室をオープンにする (教室と廊下の間の壁を可動式にする) ことで、落ち着かない子どもが注意喚起にならないのか。	子どもたちはオープンな環境になれている。 外に出たい子がいれば大人が対応して教室の外でクールダウンする。オープンになっていることで、わざわざ扉を開ける行為がなくなり、他の子の集中力も途切れないというメリットがある。

一足制について

一足制について

2024.12.10 小中一貫教育校 建て替え準備委員会資料

区の方針

- ・設計として、昇降口以下駄箱は設置しない。
- ・運用方法は各学校に合わせて、教職員・児童生徒を交えて検討をしていく。

主なメリット

- ・下駄箱のある昇降口に限定されて内外へ出入りできるため、教室での活動を校庭やテラスなどの外部空間にも拡張でき、より多様な教育環境が創出できる。
- ・机の置き替え時間が不要になり、円滑な授業進行や教育活動が可能である。
- ・休み時間等に児童・生徒が校庭を利用しやすい、体を動かす機会を増やすことができる。
- ・内外の行き来が容易なことで、日常的な部活動に加えて文化祭・体育祭などのイベント時にも様々な場を横断的に活用できる。

教育活動の機能性向上

安全性の向上

- ・昇降口に児童・生徒が密集することによる衝突などの事故や児童・生徒間のトラブル等のリスクを低減できる。
- ・災害時に避難経路を複数確保しやすく、より安全で効率的な避難誘導が可能となる。

利便性の向上

- ・昇降口に大きな段差を設ける必要がなくなり、施設のバリアフリー化を図りやすい。
- ・来校者も机の置き替えが不要となるため、より機動的な地域利用を機転がしやすい。

その他

- ・昇降口における靴箱設置スペースが不要となり、施設全体の効率化が図りやすい。

主なデメリット

体育館履きの収納場所や履き替え場所が必要となる。

個人ロッカーに収納場所を用意するなどスペースを確保する。

児童・生徒が床で作業する場合、衛生上の課題がある。

靴を脱いで作業ができる場所の設置など、設計・運用で工夫する。

雨天時に、濡れた靴や履物を履いている日の衛生上の課題がある。

長靴置き場の設置や雨の日の運用方法 (体育館履きに履き替え) など、設計・運用で工夫する。

校庭などを泥や砂で汚染しにくい舗装仕様 (例: 人工芝等) とする場合は、整備コストが増える傾向となる。

人工芝などに比べ、舗装を、整備コストを含めて検討する。

必要諸室について②

既存校との諸室比較①

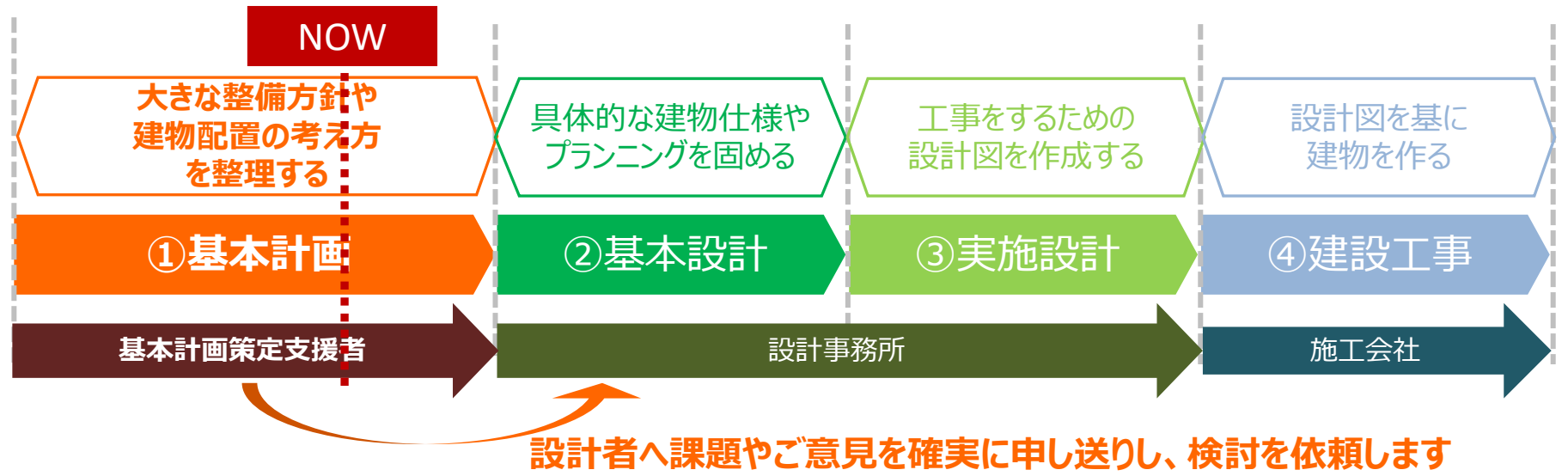
2024.12.13 小中一貫教育校 建て替え準備委員会資料

部門	1期計画 (約10,743m ²)	2期計画 (約15,620m ²)	3期計画 (約15,794m ²)
普通教室等	普通教室 (小学校2クラス×6年 = 12室、中学校2クラス×3年 = 6室)	普通教室 (小学校2クラス×6年 = 12室、中学校2クラス×3年 = 6室)	普通教室 (小学校2クラス×6年 = 12室、中学校2クラス×3年 = 6室)
	少人数教室 (9室)	少人数教室 (9室)	少人数教室 (9室)
	特別支援教室 (9室)	特別支援教室 (9室)	特別支援教室 (9室)
	特別支援学級 (9学級)	特別支援学級 (9学級)	特別支援学級 (9学級)
	図書スペース (図書室×10)	図書スペース (図書室×10)	図書スペース (図書室×10)
	図書スペース (図書室×10)	図書スペース (図書室×10)	図書スペース (図書室×10)
	図書スペース (図書室×10)	図書スペース (図書室×10)	図書スペース (図書室×10)
	図書スペース (図書室×10)	図書スペース (図書室×10)	図書スペース (図書室×10)
	図書スペース (図書室×10)	図書スペース (図書室×10)	図書スペース (図書室×10)
	図書スペース (図書室×10)	図書スペース (図書室×10)	図書スペース (図書室×10)
特別支援学級等	特別支援学級 (9学級)	特別支援学級 (9学級)	特別支援学級 (9学級)
	特別支援学級 (9学級)	特別支援学級 (9学級)	特別支援学級 (9学級)
	特別支援学級 (9学級)	特別支援学級 (9学級)	特別支援学級 (9学級)
	特別支援学級 (9学級)	特別支援学級 (9学級)	特別支援学級 (9学級)
	特別支援学級 (9学級)	特別支援学級 (9学級)	特別支援学級 (9学級)
	特別支援学級 (9学級)	特別支援学級 (9学級)	特別支援学級 (9学級)
	特別支援学級 (9学級)	特別支援学級 (9学級)	特別支援学級 (9学級)
	特別支援学級 (9学級)	特別支援学級 (9学級)	特別支援学級 (9学級)
	特別支援学級 (9学級)	特別支援学級 (9学級)	特別支援学級 (9学級)
	特別支援学級 (9学級)	特別支援学級 (9学級)	特別支援学級 (9学級)

第3回建て替え準備委員会の振り返り

2-2

建て替え準備委員会にて出た“計画に関わる各ご質問やご意見”は、事務局側で整理し、各フェーズで適切に対応していきます。



前回の建て替え準備委員会が出た“計画に関わるご質問”等

項目	具体的な検討フェーズ
道路から直接校庭に入れる計画となるか。	①②で検討
児童・生徒の入口と地域開放の入口は分けられると良い。	①②で検討
大人数のイベントで学校開放してきたが、これまでに問題は起きたことはない。建て替え後の地域開放用窓口では受付が対応できないのではないかな。	②③で検討

今回の議題について

2-3

- ・建物配置について
- ・学校施設の機能ゾーニング

部門	主な諸室	概ねの面積(m ²)
普通教室等	普通教室（小学校2クラス×6年＝12室、中学校2クラス×3年＝6室）、少人数教室(9室)、特別支援教室など	約3,000
特別支援学級等	特別支援学級、プレイルーム、特支トイレ、特支準備室など	約400
ラーニング・コモンズ	図書スペース、オープンスペースなど	約1,100
特別教室等	理科室(小・中)、図工室(小)、美術室(中)、技術室(中)、音楽室(小・中)、家庭科被服室・調理室(小・中)、各準備室、フューチャールームなど	約1,500
管理諸室等	校長室、応接室、職員室、事務室、職員会議室、生徒会室、地域開放室、PTA室兼同窓会室、放送室、保健室、サポートルーム、学校管理室、校歴保管庫など	約1,700
給食関係諸室	調理室、事務室など	約500
体育施設等	体育館×2、武道場、用具倉庫、屋内プール、開放管理室、備蓄倉庫など	約3,500
放課後クラブ	放課後クラブ室、放課後クラブ事務室など	約300
共用部	廊下・階段・機械室など	約3,600
合計面積(m ²)		約15,600

<参考>各校の延床面積※ 猿楽小学校：4,884㎡、鉢山中学校：5,859㎡、渋谷本町学園：15,794㎡

※出典：「令和5年版 渋谷の教育」建物面積より



新築建物の規模は、現状の鉢山中学校（5,859㎡）に対して、約2.66倍となります。

一方で、現状の猿楽小学校と鉢山中学校の合計（10,743㎡）に対しては、約1.45倍となります。

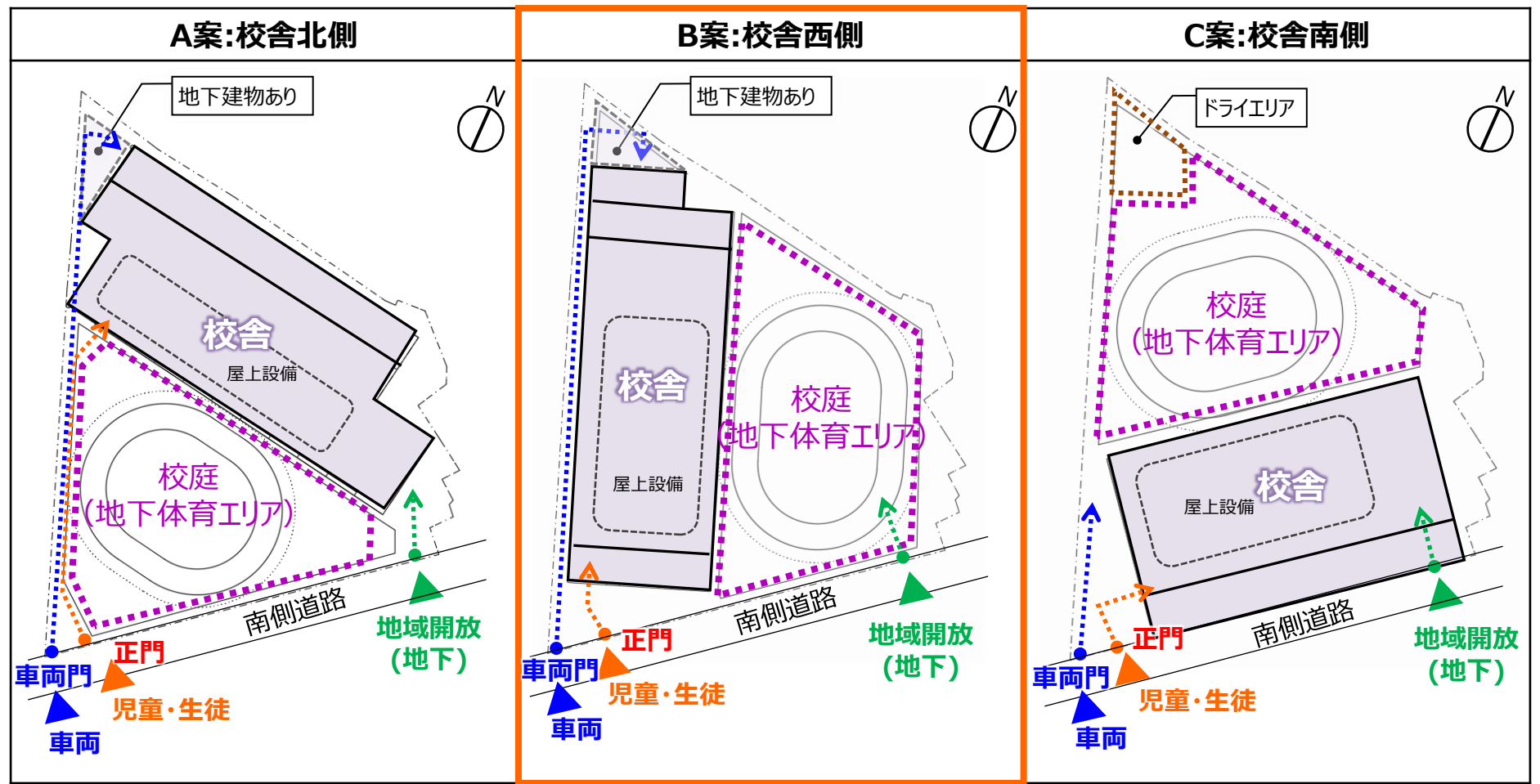
地上部に校舎、校庭地下に体育エリアを想定して校舎配置を検討します
延床面積15,620㎡→校舎棟:地上4階+体育エリア:地下3階で想定 ※体育エリア…体育館、プール、武道場を示す

	既存(現状)	A案:校舎北側	B案:校舎西側	C案:校舎南側
配置イメージ(例) ↑ ○				
校舎の断面イメージ(例)				
校庭広さ	約2570㎡	約2850㎡ (不整形)	約2900㎡ (概ね整形)	約2900㎡ (不整形) ※既存体育館ドライエリア部分は、斜面となり校庭利用が困難
トラックサイズ	約115m (内周計測) レーン幅1.0m×5レーン	約100m (内周計測) レーン幅1.2m×5レーン	約120m (内周計測) レーン幅1.2m×5レーン	約110m (内周計測) レーン幅1.2m×5レーン
近隣との関係 (北・東)	—	・北側は現状より圧迫感が増 ・東側は現状より圧迫感が増 ・校庭の活動音は校舎により低減	・北側は現状より圧迫感が低減 ・東側は現状より圧迫感が低減 ・校庭の活動音が伝達しやすい	・北側は現状より圧迫感が低減 ・東側は現状より圧迫感が増 ・校庭の活動音が伝達しやすい

※高度斜線・道路斜線等の制限位置の取り方・3 m以上の高低差がある地盤面は未算定のため、今後の行政相談や検討で変更となる可能性があります。
※日影検討における平均地盤面は現況校庭面付近としており、地下計画による平均地盤の算定・反映は行っていないため、今後の検討で変更となる可能性があります。

※この資料は、建て替え準備委員会用の検討案であり、今後の検討や協議により変更になる可能性があります。

青字：メリット、赤字：デメリット



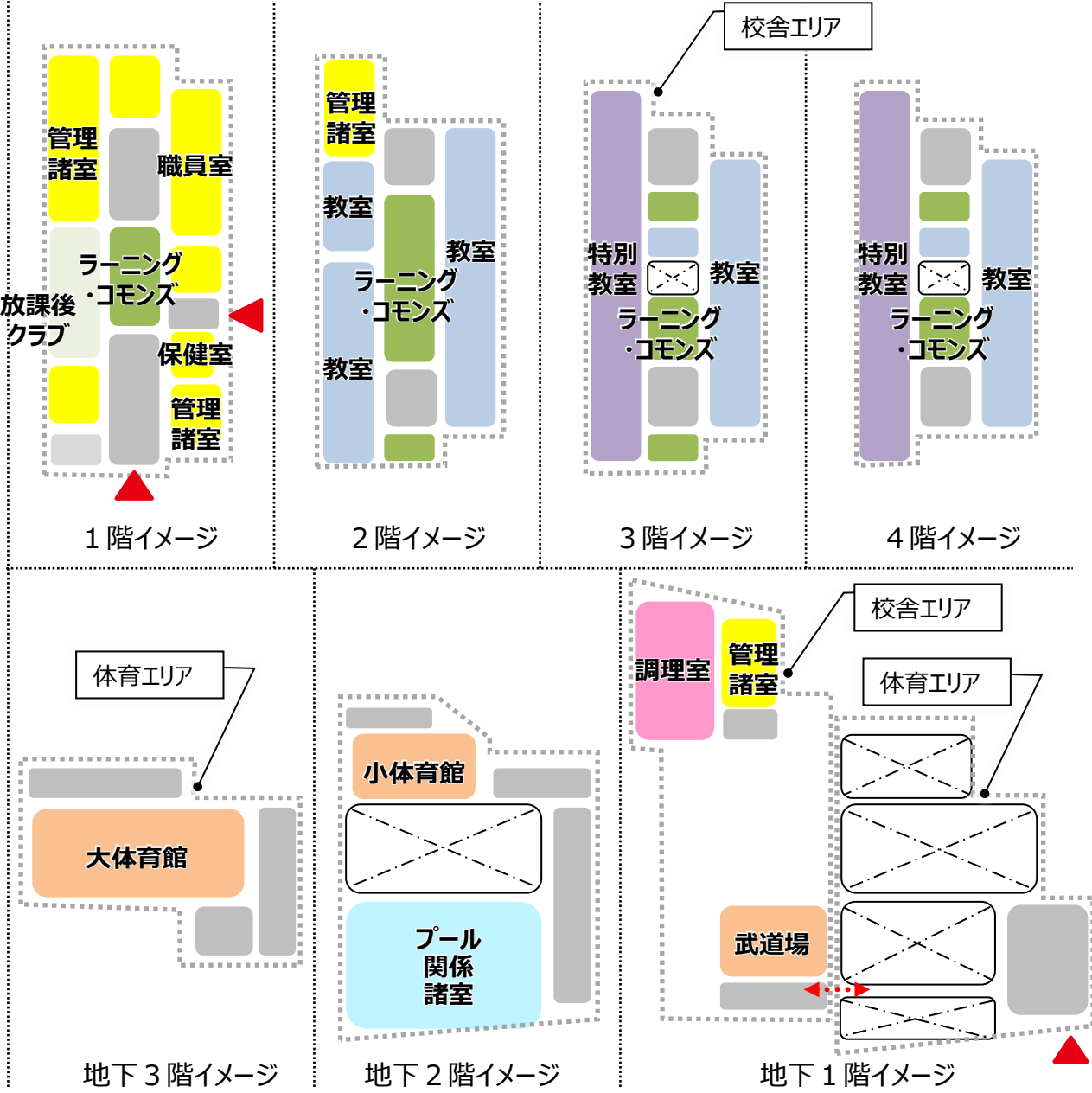
※この資料は、建て替え準備委員会用の検討案であり、今後の検討や協議により変更になる可能性があります。

機能配置の考え方

新校舎の中心にはラーニング・コモンズを配置し、普通教室や特別教室などをラーニング・コモンズに面するように配置することで、多様な学習スタイルにも対応できる場とすることを目指します。

また、地域開放動線と生徒動線を明確に分離することを目指します。

- 凡例
- ：教室（普通教室・少人数教室
特別支援教室 特別支援学級 等）
 - ：ラーニング・コモンズ（図書・オープンスペース等）
 - ：特別教室（理科室・美術室・音楽室 等）
 - ：管理諸室（職員室・保健室・更衣室 等）
 - ：給食関連（調理室・厨房関係諸室 等）
 - ：体育関連（体育館・武道場等）
 - ：体育関連（プール関係諸室）
 - ：放課後クラブ
 - ：共用部（階段・エレベーター・トイレ 等）
 - ▼：主出入口



ハード面以外の検討について

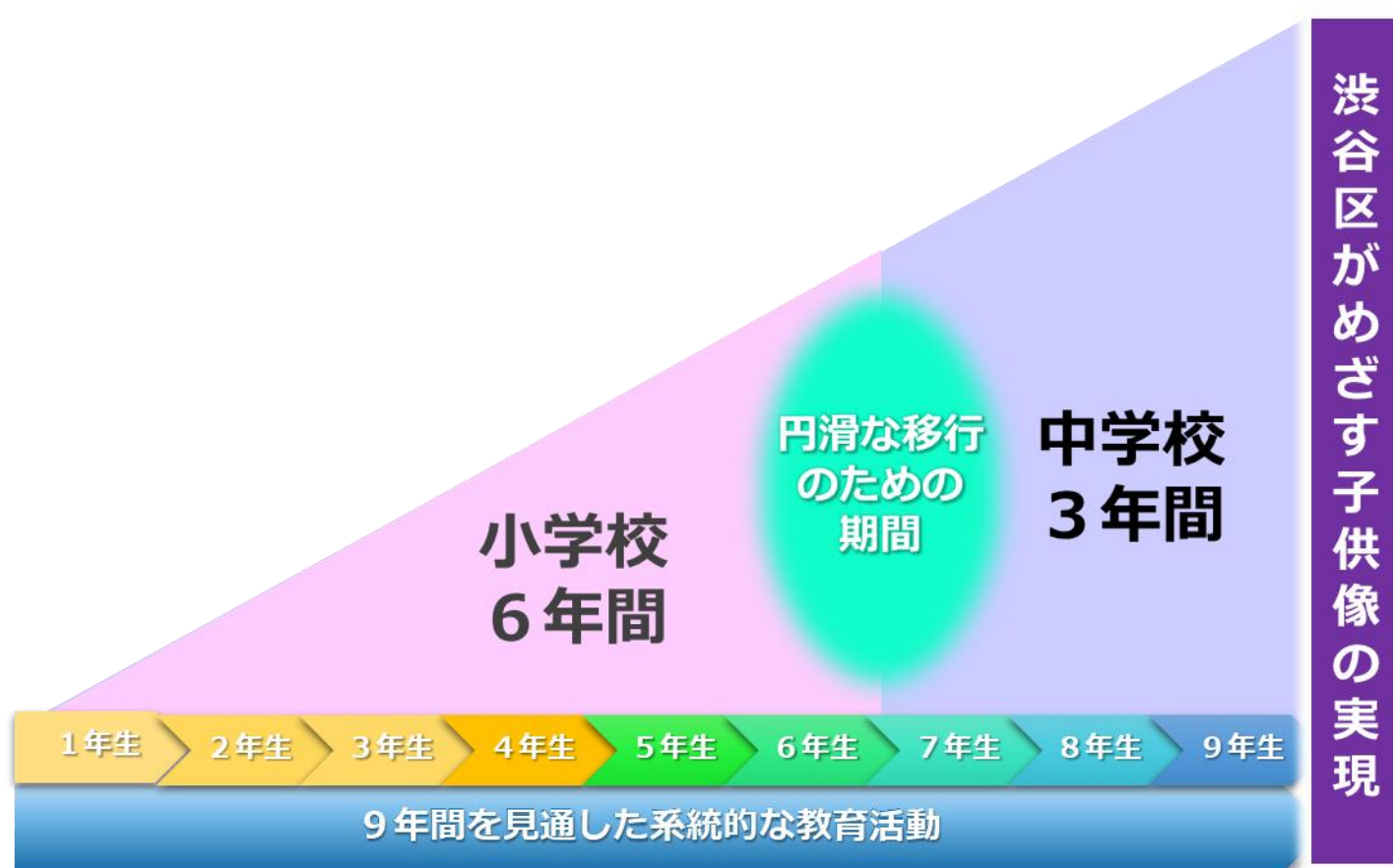
2-4

- ・検討スケジュール（予定）
- ・一貫校の制度、一貫校化について
- ・一貫校の課題や懸念と解決策・対応策について
- ・学校名、学校の特色について
- ・小学校跡地の利用について
- ・今後の情報共有について

※公開用に編集しています。

15

小中一貫教育とは、小・中学校段階の教員が目指す子供像を共有し、
9年間の見通しをもって系統的な教育を目指す教育です。



Q 渋谷本町学園では、初等部（1～4年）・中等部（5～7年）・高等部（8・9年）で行っていると学校パンフレットに記載されています。

渋谷本町学園と同様に4-3-2制となると、中学生（7年生）から入学する子ども（同じ中学校区内の小学校の児童）が入りづらく感じるのではないのでしょうか。

A 渋谷区の小中一貫教育校における学年段階の区切りは、「小学校6年間、中学校3年間」の枠組みを基本とします。

例えば、同じ鉢山中学校の学区内にある長谷戸小や常磐松小など、猿楽小以外の卒業生も7年生から入学しますが、学習の進捗は同様であるため、教育課程の問題は生じません。

なお、一貫教育校では、いわゆる「中1ギャップ」等の教育課題に対応するため、小学校段階と中学校段階との間に、円滑な移行のための取組を意図的に設けています。例えば、部活動や生徒会などに5年生から参加するなど、緩やかに中学校へ移行する取組を行っています。渋谷本町学園で実施している4-3-2制もこの取り組みを示しているものです。

Q 一貫校にすることによるメリットは何でしょうか。

- A**
- 1 学習の流れの統一：9年間の見通しをもって学習に主体的に取り組むことができ、学習の連続性が確保されます。
 - 2 多様な関わり：多様な教職員や児童・生徒と関わる機会が増え、中学校進学に対する不安感が軽減されます。
 - ・ 小学生と中学生が関わる機会の増加
 - ・ 教員数の増加
 - 3 連続性のある教育：生活指導・学習指導において9年間を見通した連続性を意識した教育が行えます。
 - 4 教職員の負担軽減：小学校と中学校に必要な事務の一体化

Q 校内に中学生がいるため、小学校高学年におけるリーダー性の育成が阻害されるのではないか

A 小学校高学年が主体的に行事の運営に携わり責任感や自立心、自覚を高めるよう工夫します。例えば、始業式と終業式、小学校1年生の入学式や中学校1年生の進級式は小中合同で行いつつ、運動会や文化祭、制服や私服の別はこれまで通りの小学校・中学校の区切りで行ったり、6年生の卒業式、9年生の卒業式は別日開催にするなどして、小学校6年生の児童の出席を確保しています。

Q 小中一貫教育校に中学校から入学する生徒の心理的負担感があるのではないか

A 中学校から入学する生徒に対しては、学区域内の小学校と交流を多く持ち、児童・生徒同士、児童同士が中学校入学前から関わりを持てるような教育活動を進めます。万が一、心のケアが必要となった場合には、スクールカウンセラー、教育センターの教育相談機能等も活用し、児童・生徒一人ひとりの気持ちに寄り添った丁寧な対応に努めます。また必要に応じて、丁寧なガイダンスを行ったり、補習や家庭学習の課題をきめ細かに出したりなどのフォローを行います。

もとより、入学後の学校に円滑に適応できるようにすることは、一貫校のみならず、通常の小・中学校においても重要なことであり、児童・生徒や保護者に対するきめ細かな対応を行うことが責務であると考えます。

Q 小学校と中学校の教員の連携の難しさや、多忙化・多忙感がでるのではないか

A 中学校教員による小学校での交流授業や授業補助を行い、児童・生徒理解に関する情報交換や連携を深めたりするなどの取組を行います。小学校高学年への教科担任制を導入する場合には、複数の学級で同じ教育内容を扱うことから、教材準備が深く、かつ効率的に行えるということが考えられます。

また、小学校と中学校それぞれで任命してきた校務分掌を、小学校段階と中学校段階どちらかの教員に担わせることが考えられます。加えて、専科指導を小・中学校段階の双方にまたがった指導を行うといった工夫も考えられます。

Q 建て替え委員会はハード面を検討する場と認識していますが、学校名や校歌などどのように検討が行われるのでしょうか。
また、学校名についてはどんな案がありますか。「鉢山」「猿楽」「原宿外苑」「千駄谷」の名称は残りますか。

A 渋谷本町学園の場合は、開校の約2年前に検討委員会が立ち上げられ、アンケート等を実施した後、学校設置者（区）が決定を行っています。
猿楽小学校・鉢山中学校、千駄谷小学校・原宿外苑中学校の小中一貫教育校についても、同様の手順を踏むことが想定され、令和12年頃から検討を開始する予定です。
渋谷本町学園と同様に、地域のご意見を聞きながら校名を検討しますが、最終決定は学校設置者（区）が行います。卒業生の思い出と歴史を尊重しつつ、未来の児童・生徒のために新たな小中一貫教育校のビジョンを構築することを目指し、慎重に検討します。

Q 学校の特色については、どのような会議体で、いつ発足し、決定していきますか。

A 中学校の特色については、区としての教育政策の方向性を踏まえつつ、区立中学校8校の状況や地域特性等を考慮し、教育委員会において学校長との協議のもと、総合的に判断して設定します。
また、学校の特色は、新設校になったから検討をするというものではなく、その時々の方針に合わせて検討するものと考えています。

Q 猿楽小の金山交流は継続しますか。

A 学校長の判断の下、実施されている事業と認識しており、教育委員会としても、継続して実施されることを期待しています。

Q

猿楽小学校跡地についてはどうなりますか。

A

猿楽小学校跡地は、周辺校建て替えのための代替校舎として利用します。また、代替校舎としての利用が終了した後は、「渋谷区『新しい学校づくり』整備方針」に記載のとおり、第2グラウンドとしての活用を想定していますが、今後の地域のニーズ等を踏まえ検討します。具体的な検討は、代替校舎としての利用が終了する数年前からになるものと考えています。

渋谷区立小学校・中学校建て替えロードマップ 令和5年（2023年）3月改定

	第1期（今後10年間）										第2期（次の10年間） ※									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041
鉢山中学校																				
猿楽小学校										★1										
長谷戸小学校																				
広尾小学校																				
常磐松小学校																				

01 建物に関する説明会について

令和7年末に、**基本計画説明会**を実施いたします。

その他、実施設計時には、近隣住民に向けた「**渋谷区中高層建築物等の建築に係る紛争の予防と調整に関する条例**」に基づく**説明会**の実施もいたします。

開催日時・方法や周知範囲については未定ですが、決まり次第お知らせいたします。

02 新入生や保護者への説明会について

各校で毎年開催している**新入生向け学校説明会等**にて、建て替えの影響を受ける学年に向けてご説明いたします。

また、Home&Schoolやコドモンへの配信、保育園などとも連携をしながら周知に努めていきます。

次回の主な議題について

2-5

- ・アンケートの実施について
- ・基本計画（素案）の説明

保護者や地域の思いや声を把握し、学校の改築を進める際の参考とさせていただくことを目的に、WEBアンケートを実施します。

＜実施概要＞

実施時期：令和7年7月上旬～中旬

実施対象：保護者、地域住民の方々

実施方法：WEBアンケート

周知方法：児童・生徒を通して家庭へ配付、近隣住民の方々へポスティング

配布資料：アンケート実施案内、基本計画（素案）抜粋版

＜アンケート内容（案）＞

Q1 猿楽小・鉢山中の建て替えにあたり、大切であると思われる事項

Q2 その他、猿楽小・鉢山中の建て替えに関してご意見

具体的なアンケート実施内容は、次回の建て替え準備委員会で説明します。